

## 巻頭言 「20周年記念号」

## 呉市介護支援専門員連絡協議会20周年に寄せて

石井外科診療所 石井哲朗



呉市介護支援専門員連絡協議会が設立20周年を迎えたこと、御同慶の至りです。

平成12年に導入された介護保険制度も紆余曲折を経ながら進化し、今では高齢者の介護になくてはならないものとして定着しています。この20年で65歳以上被保険者数は約1.6倍に、介護サービス利用者数は約3.3倍に、介護保険総費用も約3.1倍に増加しましたが、

今後も高齢者数、特に認知症高齢者数の増加、高齢者単独・夫婦のみ世帯の増加が予想されます。

重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域包括ケアシステムの構築が進んでいますが、さらにその後には現役世代の急減が予想されており、高齢者の社会参加、健康寿命の延伸、医療・介護・福祉サービスの生産性向上、給付と負担の効率化による持続可能な社会保障の確保が必要となってきます。

思い返せば介護保険制度導入前年の平成11年7月、第1回介護支援専門員実務研修受講資格試験が東広島市で開催され、私も受験しました。ゴルフ好きの青山喬初代会長の声かけによりマイクロバスをチャーターし、試験のストレスを発散すべく帰り道に薄暮ゴルフを楽しんだのが良い思い出です。

その頃呉市医師会では「医療の後ろ盾のない福祉はない」を合言葉に、当時の医師会長である鷹橋靖幸先生のもと、青山喬先生、中崎哲郎先生、神垣昌人先生を中心に、介護保険制度への対応を進めていました。

平成14年、「介護支援専門員が、各々の所属する機関、団体、職域等の垣根を超え、専門職集団として、地域の中で関係機関等に働きかけていくための組織が必要」との考えから、呉市医師会、呉市歯科医師会、呉市薬剤師会、社会福祉施設連、社会福祉協議会等が集まり、設立準備委員会（委員長：菅田耕一元理事）を立ち上げ、翌平成15年、呉市介護支援専門員連絡協議会が設立され、青山喬先生が初代会長に就任されました。

その後の本会の活動は皆様ご存じのとおりです。私は平成19年度から平成22年度に2代目会長として、「医療と介護の連携」をテーマにお手伝いさせていただきました。

個人の尊厳の尊重、自立支援、利用者本位、公正・中立という理念を守りながら業務の質を高めていくことができるよう、呉市介護支援専門員連絡協議会がこれからも活動を充実させ、発展していくことを祈念しております。

## 20周年を迎えて



居宅介護支援事業所のひら  
越 部 恵 美



呉市介護支援専門員連絡協議会は、介護保険制度が施行された3年後の2003年に発足し、会員の皆様とともに、ケアマネジメントの質の向上と地域に貢献できる組織となるように取り組んできました。

改めて以前はどうだったか記憶を辿ってみますと、ICIDHのようにマイナス面に着目するのではなく、ICFのようにプラスの視点でとらえていく事、ストレングスに着目していく事について、私たちケアマネジャーがどのようにアセスメントしていかないといけないのか、当時の役員の方々が研修計画を組み立て、研修会やグループワークを通して、共に学んでいったことが鮮明に思い起こされます。真剣にケアマネジメントに向き合い、地域の基盤固めに取り組んできた20年の歴史を振り返り、これから私たちは次世代にどのようなバトンを渡すことができるのか、ふと考えてしまいました。

会員に役立つケアマネジャーガイドラインの作成は、諸手続きを行う上で大変活用できるものでしたが、ネット社会となり「検索」すれば情報が素早く手に入る時代となったことで、当会もガイドラインの更新よりも、新たにホームページと言う形での情報発信に向け準備を進め、今年度ホームページを開設することができたことは、本当に喜ばしいことだと感じております。そしてこのホームページが、会員の皆様の役に立つ身近な資源となるように、ホームページ委員を中心に試行錯誤で内容の検討をしている状況は、現在進行形の状態です。

また、行政とのつながりでいえば、各役員はそれぞれ様々な部会等に組織の代表として参画させていただいております。そういった繋がりや協働する力にもなります。その一つが、現在様々な災害等に備えて、情報発信、情報共有の訓練を毎月実施する、という取り組みです。平時の取り組みが、いざというときの大きな力になると証明できるように、深化し継続して取り組んでいく事は重要ですが、課題も多くあると感じております。

5代目会長の任に就かせていただいた期間は、何か大きな実績が残せたか、と言われれば形にすることは至っておらず、現在の宮下会長に引き継ぐための様々な準備期間の地ならししかできませんでした。今後も現会長と共に、呉圏域の介護支援専門員が意欲を持ってケアマネジメント業務に取り組めるように、また、地域の多職種や他組織団体の方々と共に協働できる組織団体として機能していけるように当協議会に関わっていかれたらと思っております。

## 「設立20周年にあたり」



呉市介護支援専門員連絡協議会  
会長 宮下 勝則



当協議会の運営にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。当協議会は今年度、設立20周年を迎えます。ここまで継続してこられたのもひとえに会員の皆様や関係者の方々のご支援の賜物と確信しています。設立20周年にあたり、設立の時代背景や経緯を私の記憶を呼び起こしながら綴ってみたいと思います。

私は1998（平成10）年に入職し、在宅介護支援センターに配属されました。現在の地域包括支援センター、地域相談センターの前身にあたる部署です。当時の介護（予防）サービスは「在宅福祉サービス」と呼ばれ、呉市が措置権者でした。そのため、訪問介護を利用するにはこの申請書、訪問入浴は別の申請書が必要というように、縦割りの制度で書類作成に追われる日々でした。

1997（平成9年）に介護保険法が成立したのは知ってはいましたが日々の業務に追われ、勉強をすることが後回しになっていました。現在のようにインターネット上にも情報は乏しかったように記憶しています。そして入職した同じ年に第1回介護支援専門員実務研修受講試験が開催されます。周りの先輩方は標準テキストをこぞって購入し、当時としては異例のベストセラーになっていました。

新しい制度への移行を前に当時の在宅介護支援センター職員は職場や法人の垣根を超えて、自主勉強会（のちの「呉ケアマネット」）を立ち上げます。時間外に行政担当者や有志が集まり、国や県の動向、居宅サービス計画書等の標準様式にどのように記入するのか、日々の業務はどのように変化していくのかなど情報を共有しました。

月日はあっという間に流れ、2000（平成12）年介護保険制度が開始され、多数の介護支援専門員が誕生しました。従前から懸念されていた不適切な業務の遂行や母体法人の方針により介護保険サービス利用の必要性が少ない高齢者にまでサービス提供をするというような事案が occurred しました。

介護保険開始前から立ち上がっていた自主勉強会も組織としては小さく脆弱で、運営はボランティア（むしろ費用を持ち出していた）の状況で、継続して学びの機会を作る必要性は感じながらも限界がみられました。

そのような中、呉市内の介護支援専門員の資質向上や職業倫理の向上等を目的に「介護支援専門員の会を作らんといいんじゃろう」という声が旧在宅介護支援センター職員を中心に起こり、その後、設立趣意書を作ります。呉市や各関係法人幹部に根回しを行い2003（平成15年）に当協議会を設立しました。声を上げた発起人（三代目会長：山中英嗣氏ら）は激務の中、大変苦心したのだと思います。

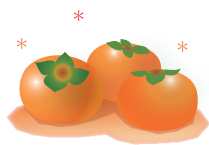
設立後、各種研修会や会報の発行を基本にガイドライン、在宅生活の限界点を高めるガイドラインの作成・発行（改定版を含む）、広島県介護支援専門員協会呉ブロック設立、要支援・要介護認定調査の受託法人の拡充（要望書提出）、ホームページの立上げなど様々な活動を続けてきました。

このような実績から呉市より「高齢者が地域でどのような生活を送っているのか」、「高齢者を支える介護支援専門員は何を感じているのか」などヒアリングを受けたり、各種会議の委員の依頼があります。

介護支援専門員として地域で生活する高齢者の実情やどのように支えていくことが望ましいのかなど、今後も説明や提言をしていきたいと思っています。会員の皆様には普段の業務等で感じていらっしゃることを役員や事務局に届けていただくと幸いです。

最後に、令和6年1月13日（土）に映像ディレクターの信友直子氏をお招きして設立20周年記念講演会を開催します。詳細は別紙チラシをご参照いただき、ぜひご参加くださいますようお願いいたします。

## 地域包括ケアシステムのさらなる推進を～皆さんとともに～



呉市福祉保健部高齢者支援課  
課長 平西 裕二

呉市介護支援専門員連絡協議会設立20周年に際し、心からお祝いを申し上げます。

また、平素より、呉市の保健福祉行政の推進にご理解ご協力をいただきありがとうございます。

高齢者と取り巻く状況は、医療と介護の両方を必要とする高齢者や認知症高齢者の増加が見込まれ、世帯の課題も複雑化・複合化しています。

「高齢者誰もが、住み慣れた地域で健やかに安心して暮らし続けることができるまち」を実現するには、高齢者主体の健康づくりや介護予防、フレイル予防への取組を推進するとともに、介護が必要となっても、在宅生活が続けられるよう、地域の関係者が分野を超えて共に支えあう地域包括ケアシステムの充実を図ることが重要です。皆様には、地域づくりにおいて多職種のコーディネート役として重要な役割を果たしていただくことを期待しています。また、制度改正や感染症対策、ICTの利活用など、取り巻く環境の変化に合わせた対応も重要となります。市としても、引き続き、皆様と連携を図りてまいりたいと思います。

最後に、今後も健康にご留意され、ご活躍いただきますことを祈念いたしまして、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

## 20周年おめでとうございます



呉市福祉保健部介護保険課  
課長 新本 康司

この度は20周年をお迎えされましたこと、誠におめでとうございます。

この日を迎えることができましたことは、会員の皆様方の並々ならぬ御尽力の成果とお慶び申し上げます。

介護保険制度創設から20年以上経過し、一定程度制度は定着してきましたが、繰り返し制度改正が行われ、高齢者にとっては複雑で分かりにくい制度設計になってきています。こうした中で、介護支援専門員の皆様に対する期待度は、年々高まっているように感じます。

皆様方が、高齢者を支える立場を堅持しつつ、同時に制度を支える側としても期待される役割にこたえて、様々な取組を実践していただいていることに、深く感謝申し上げます。

今後も、貴協議会の様々な活動は、ますます重要になると考えております。引き続き、医療・保健・福祉及び行政（保険者）などの関係者及び関係機関との連携を図りながら、サービス向上に向けた取組を推進していただきますよう、よろしく申し上げます。

末筆ながら、呉市介護支援専門員連絡協議会の一層の御発展と皆様方の御活躍を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

# 「住み慣れた環境での末永い在宅生活」を目指して



ツクイ呉広中新開(デイサービス)  
管理者 山根 昂一郎

株式会社ツクイは令和5年10月1日、呉市広中新開にデイサービスを開設しました。

当事業所は「在宅生活の延伸」を目指して「生活支援」にこだわったサポートをおこなっている、1日型デイサービスです。

## 【ツクイ呉広中新開の特長】

### ①お一人おひとりに合わせた「機能訓練」

住み慣れたご自宅で末永くお過ごしいただくために、転倒リスクの軽減や身体機能の維持・向上を目的として、機能訓練機器を活用し、筋力・バランス・注意力に着目した運動プログラムを実施しています。また、認知症のお客様には、小集団訓練や脳トレーニング、対話の機会を提供しています。介護度の高いお客様の残存機能の維持や、協力動作訓練にも力を入れており、ご家族の介護負担の軽減に努めています。



### ②お困りごとを解決する「生活支援」

買い物などの外出が困難な方には、機能訓練の一環として、近隣のコンビニエンスストアに外出する買い物訓練などを実施しています。また介護保険外のサービスとして、デイサービスご利用時に日用品を注文できる「ツクイマーケット（カタログ商品のお届け）」や、夕食の準備にお困りの方に便利な「お持ち帰り冷凍弁当」などのご提案もしています。

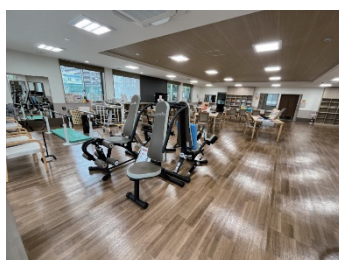
### ③地域社会とのつながりを大切にした「交流」

お客様に地域社会でいきいきとお過ごしいただくために、お客様が作成したおもちゃやお花などを幼稚園にプレゼントするなど、積極的な地域交流・世代間交流を図っています。

私たちツクイは、地域に根付いた真心のこもったサービスを提供し、誠意ある行動で責任をもって、お客様と社会に貢献します。

ぜひ、お気軽にご相談・ご見学にお越し下さい。

広々としたフロアのほか、静養室にはベッドを3床設置しています。浴室には大浴槽に加えて特殊浴槽や個別浴槽を完備しており、お身体の状態に応じた入浴が可能です。



# はたらく母さん看取り奮闘記 VOL.4



呉市役所/スナックレモネード医療部

前野尚子

この記事は、私が2017年に実父を在宅で看取ったときに記したブログです。当時は、小・中・高生を抱え、公務員として働くワーキングマザーであり、車いすで一人暮らしの実父の終末期に直面していました。できれば最期は自宅でという思いを叶えるべく奮闘した様子を綴っています。家族の看取りに直面している方や関係者の方々にとって何かの参考になれば幸いです

## 2017年2月16日 「ラク家事でいいのだ！」

働く母は忙しい。母でもあるし、妻でもあるし、嫁でもあるし、娘でもあるし、職場では一社会人だ。

なにも好きでコンビニ弁当やスーパーの惣菜を子どもに食べさせてるわけではないんだよ。そりゃあ、後ろめたさもある。でも、どんなものにもデッドラインがあって、そこを守りながらギリギリで走ってる。いつもいつも、バラエティ豊かな食卓というわけにはいかない。そして、人は時間がきたらお腹が空く。ますますデッドラインは近づく。だから、あれもこれも作ってはいられない。

一汁一菜でいい。なんなら、ご飯と具たっぷりの味噌汁だけでいい。という至ってシンプルな提案。

ああ、そうか。「献立」とか「あれもこれも」という一種の脅迫観念に囚われていたのかも？

もっとラクに、シンプルに食べていいんだ。

そしてそれが幸せ感とか、充実感に繋がっていくのかも…と、気づかせてもらった本でした。



## 2017年2月20日 「下がらない血圧」

先々週、病院から老健に移った父。

移った当初から血圧が上がり、環境の変化かな？と様子見でしたが、下がる気配がなく、結局、降圧剤が一錠追加になりました。

腰の痛みは取れず、リハビリもしたり、しなかったりの様子。

老健スタッフの看護師さんや、理学療法士さん、よく様子を見てくださり、その様子を私に電話で伝えてくださいます。いろいろ話す中で、もうどうにもならない事も多いですが、出来るだけ楽に、辛くないように過ごさせてやりたいという気持ちは共有できたように思います。

一緒に父のことを本気で考えてくれる姿勢に感謝です。



## 20周年を迎えて(感謝を込めて)



居宅介護支援事業所でのひら  
統括所長 松井 富子

呉市介護支援専門員連絡協議会の創立20周年おめでとうございます。役員・委員の方々の努力そして会員の皆様のご協力に感謝いたします。

思い起こしてみれば、もう20年も経ったのかと感慨もひとしおです。呉市の協議会はその1～2年程前(介護保険施行直後)より、市域の被保険者及びそのご家族の皆様へより良いケアプランのサービスをどうすれば提供出来るかと、新しい事を実施する上での不安を抱え、試行錯誤するケアマネジャーが沢山いました。そんな中有志の者10人前後が集まりお互いに意見交換をしたり、事例検討を実施したりと研鑽を重ねながら、先達の方たちを招いての研修の場を持つためにクレケアネットという有志の会を立ち上げ、それぞれのケアマネジャーが支えあっていました。私もその中の一人として参加させて頂き今日を向かえる事が出来ました。今まで支えて頂いた多くの先輩・後輩そして仲間の皆様には感謝の言葉しかありません。「ありがとうございます。」

20年の間には様々な事がありましたが、その中でも記憶に残る2～3の思い出を語らせて頂きます。クレケアネットで活動している中、1年程経て呉市や呉市医師会の尽力を頂き広島県内で初めての(私はそう思っています)介護支援専門員の連絡協議会を発足させようということになり2003年森沢ホテルで発会式が行われました。創立時の会長(当時呉市医師会会長)の青山先生、総務の菅田先生(当時呉市医師会の在宅担当の理事)には多大なお力を頂き、支えて頂きました。それは会の発足からその後の運営まで長く続けて頂いています。そして第2代会長の石井先生(呉市医師会副会長)には後人も育てて頂き、その後も長く理事として協議会を見守って頂いております。本当にありがとうございます。また事務局に於いては呉市社会福祉協議会にて引き受けて頂き、運営・総務・経営も考えて頂き、感謝に堪えません。

またクレケアネットからの引き続きで研修して来た事の集大成としてケアマネジメントのガイドライン集を発刊する事が出来ました。これも先輩ケアマネジャーの重永さんを中心にガイドライン委員会を立ち上げ、全国的にも早く整備する事が出来ました。そして2～3年に一度は改定していました。刊行した当初は県内外からの問い合わせや譲って欲しいという希望者があった事などを思い出します。まだ今ほどネットワークが上手く使えていない20年前の事大いに役に立ったと思います。また10周年の時には当時会長であった山中さん(当時昭和包括支援センター長)を先頭に役員・委員の方々や会員の皆様の協力により、阿賀プラザをほぼ貸切にして記念講演会・座談会を開催する事が出来ました。準備や運営は大変だったのですが今となっては充実した素晴らしい時を過ごせたと思っています。

発足から10年前後の忙しい時が松井ケアマネにとっての「青春時代」だったかなと思います。そして皆様に出会えたことが私の宝物です。もう少し頑張っって元気でいようと思いますので皆様どうぞよろしく願いいたします。

## 編集後記

設立20周年という節目を迎え、記念号を発行いたします。

設立10周年記念号にも携わり、あれから10年と感慨深く思います。

介護支援専門員の業務の本質は、20数年たった現在も変わりはありませんが、作成している書類の内容には改正の度新しい要素が加わり、煩雑になっています。

そんな中で、「用心のため」というセーフティーガードを発動し、本来は必要のない書類をそれぞれの組織の中で増やしていませんか？そうしなければ実地指導で注意を受けるから、減算になるかもしれないから、加算を算定できないかもしれないからと「根拠のない言い伝え」が居宅に限らず、事業所の方からも聞こえてきます。

できれば、書類や行動の意味するところを正確に理解し、「なくても良い書類」が減らせるよう、少しでも業務の負担が軽減できるよう考えていきたいと思えます。

来年は、改正です。しっかり理解して業務に反映させていきましょう。

皆様、どうかよいお年をお迎えください。

竹中敦子



## 事務局だより

11月も半ばを過ぎ、ようやく朝晩冷え込む日が続いて、我が家では、こたつ生活がはじまりました。皆さんはどのようにして寒い冬を乗り越えていますか？

さて、今年、当会は設立20周年を迎えます。これを記念して、今号では設立20周年記念の記事を掲載し、来年1月13日には記念講演会を開催する予定です。

会員の皆さんも記事を読んだり、記念講演会に参加して、設立20周年を一緒にお祝いしませんか？



～ 住み慣れたお家で、お風呂に入ろう～

**ケアフルサービス訪問入浴介護事業所**

〒737-0124 広島県呉市広中新開1丁目1-12

TEL (0823) 76-5602

Instagram更新中！[ケアフルサービス](#)で検索可能◎



発行責任者 宮下 勝則  
広報委員長 竹中 敦子  
広報委員 舩谷 御幸  
梶川 清治

小川 ひろみ  
生馬 聡子

事務局 〒737-0051 呉市中央5-12-21  
呉市福祉会館 1階  
呉市社会福祉協議会内 担当：向井  
TEL：0823-32-3510  
FAX：0823-32-2443